

令和 5 年度前橋市中学校体育連盟サッカー競技大会における
メディカルサポート報告

1. メディカルサポートの概要（表 1）

- 参加大会：3 大会，全 53 試合
 - 前橋市中学校春季大会：5 日間 18 試合
 - 前橋市中学校総合体育大会：5 日間 18 試合
 - 前橋市中学校新人大会：5 日間 17 試合
- 参加スタッフ数（延べ）：理学療法士 61 名
- 対応数（延べ）：65 校，112 選手，280 件

表 1. メディカルサポート概要

大会日程	試合数	スタッフ数 (延べ)	対応数（延べ）		
			学校数	選手数	件数
春季大会（4/16～5/3）	18	21	17	25	68
夏季大会（7/2～7/16）	18	19	22	48	114
新人大会（9/9～9/24）	17	21	26	39	98
合計	53	61	65	112	280

2. 傷害部位・分類内訳（表 2, 表 3, 表 4）

- ・ 傷害部位：傷害総数 118 件中、下腿が 19 件（16%）と最も多く、次いで手関節が 14 件（12%）、腰部が 10 件（8%）、足関節 9 件（8%）であった（表 2）。
- ・ 傷害分類：打撲が 36 件（31%）と最も多く、次いで骨折が 24 件（20%）、足関節捻挫が 9 件（8%）、肉離れが 8 件（7%）であった（表 3）。
- ・ 骨折部位：骨折 24 件中、手関節が 11 件（46%）と最も多く、次いで手指が 4 件（17%）、足部が 3 件（13%）、胸腹部・前腕が各 2 件（8%）であった（表 4）。

表 2. 受傷部位別件数（件）

傷害部位	春季	夏季	新人	計
頭部	1	0	5	6
顔面	0	1	2	3
頸部	0	1	0	1
胸腹部	2	1	0	3
背部	0	0	1	1
腰部	0	1	9	10
肩関節	0	2	0	2
肘関節	0	2	0	2
前腕	0	2	2	4
手関節	4	9	1	14
手指	0	5	1	6
股関節	2	0	3	5
大腿部	1	2	0	3
内転筋群	0	1	2	3
大腿四頭筋	0	5	2	7
ハムストリングス	0	1	1	2
膝関節	3	2	1	6
下腿	11	5	3	19
足関節	5	2	2	9
足部	0	1	6	7
その他	0	5	0	5
合計	29	48	41	118

表 3. 傷害分類別件数（件）

傷害分類	春季	夏季	新人	計
打撲	8	15	13	36
骨折	4	14	6	24
足関節捻挫	5	2	2	9
肉離れ	3	3	2	8
筋痙攣	4	2	1	7
関節周囲痛	0	2	4	6
突き指	2	2	1	5
脳振盪	1	0	3	4
出血	0	1	3	4
シンスプリント	0	1	1	2
腰痛	0	1	1	2
膝関節靭帯損傷	1	0	0	1
熱中症	0	0	1	1
その他	1	5	3	9
合計	29	48	41	118

表 4. 骨折部位別件数（件）

傷害分類	春季	夏季	新人	計
胸腹部	1	1	0	2
腰部	0	1	0	1
前腕	0	0	2	2
手関節	2	8	1	11
手指	0	4	0	4
股関節	1	0	0	1
足部	0	0	3	3
合計	4	14	6	24

3. 受傷機転（表 5, 表 6）

- ・ 傷害総数 118 件中，外傷による受傷は 79 件（67%），Overuse による受傷は 25 件（21%）と外傷による受傷が多かった（表 5）.
- ・ 傷害部位別：下腿は外傷及び Overuse による受傷がともに多く，腰部や手関節は外傷による受傷が大多数を占めていた（表 6）.

表 5. 受傷機転別対応件数（件）

	外傷	Overuse	その他	計
春季大会	18	7	4	29
夏季大会	33	10	5	48
新人大会	28	8	5	41
合計	79	25	14	118

表 6. 受傷機転による傷害部位別対応件数（件）

傷害部位	外傷	Overuse	その他	計
頭部	5	0	1	6
顔面	3	0	0	3
頸部	0	1	0	1
胸腹部	2	1	0	3
背部	1	0	0	1
腰部	7	2	1	10
肩関節	2	0	0	2
肘関節	2	0	0	2
前腕	4	0	0	4
手関節	13	0	1	14
手指	6	0	0	6
股関節	0	3	2	5
大腿部	3	0	0	3
内転筋群	1	2	0	3
大腿四頭筋	4	3	0	7
ハムストリングス	0	1	1	2
膝関節	4	0	2	6
下腿	9	9	1	19
足関節	9	0	0	9
足部	3	3	1	7
その他	1	0	4	5
合計	79	25	14	118

4. サポート内容（表 7、表 8）

- ・対応時期：対応総数 280 件中，試合後が 151 件（54%）と最も多く，次いで試合前が 73 件（26%）であった。（表 7）
- ・対応内容：対応件数 280 件中，テーピング実施が 77 件（28%）と最も多く，次いで傷害確認・指導が 56 件（20%），アイシング実施が 36 件（19%）であった。対応時期別の対応内容として，試合前はテーピング実施が最も多く，試合後は傷害確認・指導，ストレッチング指導，アイシング指導が多かった（表 8）。

表 7. 対応時期別対応件数（件）

対応時期	春季	夏季	新人	計
試合前	17	35	21	73
試合中	6	14	19	39
ハーフタイム	2	10	5	17
試合後	43	55	53	151
合計	68	114	98	280

表 8. 対応時期別サポート内容の内訳（件）

対応内容	対応時期				合計
	試合前	試合中	ハーフタイム	試合後	
テーピング実施	52	5	9	11	77
アイシング実施	0	10	1	25	36
アイシング指導	0	0	1	32	33
ストレッチング実施	7	3	0	17	27
ストレッチング指導	6	0	0	20	26
止血処置	0	2	2	2	6
徒手的治疗	2	3	0	2	7
傷害確認・指導	5	7	4	40	56
救急搬送	0	5	0	0	5
その他	1	4	0	2	7
合計	73	39	17	151	280

5. テーピングの対応部位および目的（表 9、表 10）

- ・目的：症状緩和が 52 件（68%）と最も多く，次いで応急処置が 11 件（14%）であった（表 9）.
- ・部位：テーピング対応 77 件中，対応部位が手関節・足関節が各 12 件（16%）と最も多く，次いで手指が 9 件（12%），腰部・下腿が各 8 件（10%）であった（図 10）.

表 9. テーピング目的別対応件数（件）

テーピング目的	春季	夏季	新人	計
予防	1	2	1	4
症状緩和	18	23	11	52
応急処置	6	3	2	11
修正・追加	0	8	1	9
その他	0	0	1	1
合計	25	36	15	77

表 10. テーピング部位別対応件数（件）

	春季	夏季	新人	合計
頸部	0	2	0	2
胸腹部	1	0	0	1
腰部	0	1	7	8
肘関節	0	1	0	1
前腕	0	2	0	2
手関節	5	7	0	12
手指	0	8	1	9
股関節	1	0	0	1
大腿部	1	1	0	2
内転筋群	0	2	1	3
大腿四頭筋	0	4	1	5
ハムストリングス	0	1	1	2
膝関節	2	0	0	2
下腿	8	0	0	8
足関節	7	2	3	12
足部	0	1	2	3
その他	0	4	0	4
合計	25	36	16	77

6. 総括

対応件数は 280 件と例年（昨年度：248 件）よりも多い傾向にあった。傷害部位は、下腿や手関節、腰部が多かった。傷害分類は打撲や骨折、足関節捻挫が多く、特に骨折では手関節・手指・前腕などの上肢が半数を占めた。

最も傷害が多かった部位である下腿では、筋痙攣や肉離れ、打撲など外傷及び Overuse とも多くみられ、急性期外傷に対する応急処置や Overuse に対する症状緩和のための処置など様々な対応が必要となる。一方、手関節、腰部、足関節では骨折や足関節捻挫、打撲など外傷による受傷が大多数を占めていた。特に、手関節の受傷機転の大半はプレー中の転倒時に手を着いて受傷したものであった。中学生年代は成長期による身体的変化やプレー強度への不適応によって転倒を起こしやすいと考えられる。そのため、試合中の上肢の外傷を想定した応急処置に関する技術の向上を図る必要があると考える。

対応内容として、試合前はテーピング実施が最も多く、試合後は傷害確認・指導、ストレッチング指導、アイシング指導が多かった。試合前のテーピング対応においては、ウォーミングアップや試合開始までの時間を考慮する必要がある。対応の際には、チームミーティングやウォーミングアップの開始時間や、先発出場に関する情報を確認し、適切な評価と迅速な対応を心掛ける必要があると考える。

令和5年度群馬県中学校体育連盟サッカー競技大会における メディカルサポート報告

1. メディカルサポートの概要（表1）

- ・参加大会：3大会，全64試合
群馬県中学校春季大会（以下，春季大会）：3日間23試合
群馬県中学校総合体育大会（以下，夏季大会）：5日間18試合
群馬県中学校新人大会（以下，新人大会）：4日間23試合
- ・参加スタッフ数（延べ）：理学療法士64名
- ・対応数（延べ）：57校，89選手，186件

表1. メディカルサポート概要

大会日程	試合数	スタッフ 人数	対応数（延べ）		
			学校数	選手数	件数
春季大会(6/4～6/11)	23	25	14	16	44
夏季大会(7/26～7/31)	18	23	29	56	104
新人大会(10/14～10/22)	23	16	14	17	38
合計	64	64	57	89	186

2. 傷害部位および傷害内容（表2，3）

- ・傷害部位：傷害総数92件中，下腿が16件（17%）と最も多く，次いで足関節が10件（11%），膝関節が9件（10%）であった。
- ・傷害内容：傷害総数92件中，打撲が26件（28%）と最も多く，次いで骨折が13件（14%），足関節捻挫が9件（10%）であった。

表2. 傷害部位別件数（件）

傷害部位	春季	夏季	新人	計
顔面	1	5	0	6
腰部	1	3	0	4
肘関節	1	1	0	2
前腕	0	1	2	3
手関節	0	6	2	8
手指	1	4	1	6
股関節	1	0	1	2
大腿部	2	3	3	8
内転筋群	0	0	1	1
大腿四頭筋	2	1	0	3
ハムストリングス	3	5	0	8
膝関節	1	8	0	9
下腿	2	9	5	16
足関節	1	6	3	10
足部	1	0	0	1
足趾	2	0	0	2
その他	0	3	0	3
合計	19	55	18	92

表3. 傷害分類別件数（件）

傷害分類	春季	夏季	新人	計
打撲	7	16	3	26
骨折	1	8	4	13
足関節捻挫	1	5	3	9
出血	1	6	1	8
筋痙攣	2	3	2	7
その他	2	3	2	7
肉離れ	3	2	1	6
腰痛	1	3	0	4
突き指	0	3	1	4
熱中症	0	3	0	3
膝蓋周囲障害	0	2	0	2
脳振盪	1	0	0	1
脱臼	0	1	0	1
関節周囲痛	0	0	1	1
合計	19	55	18	92

3. 受傷機転（表 4, 5）

- ・ 傷害総数 92 件中，外傷による受傷は 65 件（71%），Overuse による受傷は 20 件（22%）と外傷による受傷が多かった。
- ・ 傷害部位別：外傷による受傷は下腿や足関節に多く，Overuse による受傷は下腿やハムストリングスに多かった。

表 4. 受傷機転別対応件数（件）

	外傷	Overuse	その他	計
春季大会	11	7	1	19
夏季大会	42	8	5	55
新人大会	12	5	1	18
合計	65	20	7	92

表 5. 受傷機転による傷害部位別対応件数（件）

傷害部位	外傷	overuse	不明	合計
顔面	4	1	1	6
腰部	2	0	2	4
肘関節	2	0	0	2
前腕	3	0	0	3
手関節	8	0	0	8
手指	6	0	0	6
股関節	0	2	0	2
大腿部	5	1	2	8
内転筋群	1	0	0	1
大腿四頭筋	1	2	0	3
ハムストリングス	3	4	1	8
膝関節	8	1	0	9
下腿	10	5	1	16
足関節	10	0	0	10
足部	0	1	0	1
足趾	2	0	0	2
その他	0	3	0	3
合計	65	20	7	92

4. サポート内容（表 6, 7）

- ・対応時期：対応総数 186 件中、試合後が 76 件（41%）と最も多く、次いで試合前が 50 件（27%）であった。
- ・対応内容：対応総数 186 件中、テーピング実施が 52 件（28%）と最も多く、次いで傷害確認・指導が 42 件（23%）、アイシング実施が 28 件（15%）であった。

表 6. 対応時期別対応件数（件）

対応時期	春季	夏季	新人	計
試合前	6	33	11	50
試合中	10	21	6	37
ハーフタイム	11	10	2	23
試合後	17	40	19	76
合計	44	104	38	186

表 7. 対応内容別対応件数（件）

	春季	夏季	新人	計
テーピング実施	7	33	12	52
アイシング実施	5	16	5	26
アイシング指導	7	10	1	18
ストレッチング実施	8	4	2	14
ストレッチング指導	3	8	2	13
止血処置	1	6	1	8
徒手的治疗	2	4	3	9
傷害確認・指導	11	20	11	42
救急搬送	0	1	0	1
その他	0	2	1	3
計	44	104	38	186

5. テーピング実施目的および部位（表 8、9）

- ・3 大会におけるテーピングの実施は 52 件であった。
- ・目的：症状緩和が 29 件（56%）と半数を占め、次いで応急処置が 11 件（21%）であった（表 5）。
- ・部位：手関節，下腿，足関節が各 8 件（15%）と多く，次いで手指，膝関節が各 5 件（10%）であった。

表 8. テーピング目的別対応件数（件）

	春季	夏季	新人	計
予防	1	1	7	9
症状緩和	2	24	3	29
応急処置	3	6	2	11
修正・追加	1	2	0	3
合計	7	33	12	52

表 9. テーピング部位別対応件数（件）

	春季	夏季	新人	合計
腰部	0	3	0	3
前腕	0	1	2	3
手関節	0	6	2	8
手指	0	4	1	5
大腿部	0	1	1	2
大腿四頭筋	2	0	0	2
ハムストリングス	2	2	0	4
股関節	1	0	1	2
膝関節	0	5	0	5
下腿	0	6	2	8
足関節	0	5	3	8
足部	1	0	0	1
足趾	1	0	0	1
合計	7	33	12	52

6. アイシング実施内容および部位（表 9、10）

- ・3 大会におけるアイシングの対応総数は 45 件であった。
- ・内容：アイシング実施が 27 件（60%）、次いでアイシング指導が 18 件（40%）であった。
- ・部位：下腿が 10 件（18%）と最も多く、次いでハムストリングス、膝関節、足関節が各 6 件（13%）であった。

表 9. アイシング対応内容別対応件数（件）

	春季	夏季	新人	計
実施	6	16	5	27
指導	7	10	1	18
合計	13	26	6	45

表 10 アイシング部位別対応件数（件）

	春季	夏季	新人	合計
腰部	1	0	0	1
肘関節	1	0	0	1
前腕	0	0	0	0
手関節	0	2	0	2
手指	1	1	0	2
大腿部	0	0	0	0
大腿四頭筋	2	2	0	4
ハムストリングス	2	4	0	6
膝関節	0	6	0	6
下腿	0	8	2	10
足関節	2	2	2	6
足部	1	0	2	3
足趾	3	0	0	3
その他	0	1	0	1
合計	13	26	6	45

7. 総括

対応件数は 186 件であり、昨年度の 201 件よりやや少ない結果であった。今年度の傾向として、夏季大会の傷害件数が他 2 大会と比較して 2 倍以上の件数となったことが挙げられる。内訳を見ると夏季大会では、打撲や骨折、出血といった外傷に起因する傷害が多かった。夏季大会は他 2 大会と比較して、選手の身体的な発達が進み、身体接触による衝撃が激しいものに変化していることが予測される。また、中学生年代最後の大会として特に勝敗結果への気持ちが強く出ること、また暑さによる状況判断の遅れなど様々な要因があることが推測される。メディカルスタッフとしては夏季大会において特に、外傷による傷害が起こりやすいことを認識し、受傷機転を見逃さないように試合状況に目を配り、迅速な対応に繋げられるように準備する必要があると考える。

傷害部位では下腿が最も多く、次いで足関節が多かった。両部位とも外傷による傷害が大半を占めており、それに伴い上記部位へのアイシングやテーピング対応が多かった。急性外傷への対応としては RICE 処置を基本とした迅速な応急処置が求められるが、メディカルスタッフはそれ以外にも外傷に対する重症度の鑑別評価が行えることが重要であると考え。鑑別評価を適切に実施することで、その後の医療機関受診の必要性や、帰宅後の注意点や対応について具体的な説明が可能となるため、応急処置のみでなく評価の点についても高い質を担保することが重要であると考え。

サポート内容の傾向として、先述した通り全体の対応件数は減少したものの、試合中やハーフタイムの対応が昨年度と比較して多かった（昨年度：42 件、今年度：60 件）。試合中やハーフタイムでの対応では、早急な対応はもちろんのこと、早急に周囲の状況把握をすることが重要となる。当該選手の試合における重要度や試合状況、監督の意向等様々なことを把握した上で、どのような対応に繋げていくのかを検討することが必要である。メディカルスタッフは処置としての技量以外にも、サッカー競技の試合場面での対応として適切な対応を検討していく必要があると考える。